



大賞

青森県八戸市 長根^{ながね} りんこ

橙色の鳥

おばあちゃんがこどものころの話だよ。

ある日橙色のかわいい小鳥を見つけたの。
夢中で木の実を食べていたので、「こんにちは
は」と声をかけると、「こんにちは」と返事
してくれたのでびっくり。

「その実はおいしいの」「うん、甘酸っぱくて
やわらかいよ。この木の中に一個だけ金色の
実があつて、金色の花が咲くんだよ」

それから毎年、橙色の鳥はここに来て、旅
をしながら見てきた日本や世界のいろいろな
土地の話を教えてくれた。楽しい時間だった。

十数年後、あの鳥が「いい所に連れて行って
あげよう」と誘ってくれた。そこは金色の森の
中で一人のすてきな青年が立っていた。そう、
あなたのおじいさんよ。



準大賞

東京都江戸川区 鈴木^{すずき}

一華^{いちか}

一歩

いつからだろう。ボクがカノジョを好きになったのは。キラキラした瞳。無邪気な笑顔。なにより、好きなものは好きと自分を貫く姿にボクは強く惹かれたんだ。

いつからだろう。ボクがボクを好きになったのは。自分の気持ちに自信が持てなくて、他人と目を合わせることすらできなかった。ボクが変わったのは、カノジョのおかげだ。

ボクの家の玄関には一枚の写真が飾ってある。ボクのワンピースを着たカノジョと、カノジョの青いシャツを着たボク。ボクたちが、本当の姿になって初めて出かけたときの写真。真実の写真。

自分に正直に生きたいと、初めの一歩を踏んだ、眩しい夏の思い出。

入選

大阪府大阪市 おくたに 奥谷 かずき 和樹

キツネの姉妹、旅に出る。



彼女たちは実はキツネの姉妹。人間たちを
びつくりさせるのが大好き。日本での演技が
認められて、晴れて海外デビュー。お姉ちゃ
んは言います。「フランス語って難しいのか
しら。ちゃんと意味が通じるかな」「大丈夫
よ、お姉ちゃんなら。人の鳴きまねなら天下
一品だもの。そういう私のほうこそ心配。う
まく踊れるかなあ」「あなたの踊り、私好き
よ。その傘をうまく使えば、みんなあなた
に夢中よ、きつと」「良かったあ、傘に見え
るんだね。畑で拾ったススキだけど」「あら、
この子ったら」「お姉ちゃんこそ、その帽子、
素敵よ」「ありがと。本当はタンポポだけど」
二人の成功は、間違いないようです。

入選

東京都墨田区

清羅^{きおら}

言の葉の舞

このまま だれにも伝えなければ
言の葉 ヒソヒソ 秘密にできる
やっぱり あなたに伝えたならば
言の葉 コソコソ 約束をする

それでも あなたが伝えたならば
言の葉 ソワソワ 裏切りになる
そうして だれかも伝えたならば
言の葉 ザワザワ 噂が広がる

ところが あなたが伝えなければ
言の葉 ドキドキ 絆が生まれる

咲くのも 散るのも 植えるのも
言の葉 ひらひら わたしの口から



入選

山梨県甲府市 スギサト リキ

誕生日

「ねえ、あなたはどこにしたの？」

わたしが尋ねると、男の子は笑顔で答えた。

「ぼくは、フランスに行くことにしたよ。あなたはどこにしたんだい？」

「わたしは日本よ。このワンピースの模様が、国旗みたいでしょ？」

すると、男の子がちよつと首をかしげる。

「うーん。少しちがうような気もするけど、似てるかなあ。あ、そろそろ順番だね」

「わたしたち、また会えるかしら」

「会えたら、おもしろいよね。ぼく、あなたのこと忘れないようにがんばるよ」

「わたしも。じゃあ、行きましようか」

同じ誕生日になる予定のわたしたちは、それぞれの母親を目指して、天を飛び立った。



入選

青森県東津軽郡平内町

棟方 むなかた

香吏 かおり

ロボットたちの旅路

「ねえシズ、わたしやっぱり、もっと大きなバッテリー持ってくればよかった。せつかくの旅行なのに途中で動けなくなったら最悪」
「しー！ 声大きい。わたしたちがロボットだって気付かれたらどうするの」

「へいきへいき。どうせもうそこらじゅう、ロボットだらけなんだから」

「それもそうね。あーあ、やになっちゃう。いつまでこそこそ生きていかなきゃならないのかな。とつくに地球の人口の、十分の一はロボットなのに」

「ほんとそれ。人間たちが、本気で多様性を認めてくれるのなら、わたしすぐにでもロボットだって声をあげて、この人間の形をやめるのに」





入選

東京都世田谷区

坪井^{つばい}

麻衣^{まい}

春の創始者

ある日、一羽の鳥に出会った。赤い実を食べるその鳥は、これが「春の実」なのだという。「おれがこれをすつかり食べきるとな、世界に春が訪れるんだよ。……何を笑っている、おかしいか？おれの父さんも爺さんも、みんなこれをやってたんだぜ。自分の命と引き換えにな」そのままたとと食べすすめ、ようやく最後の一口を食べ終えた瞬間。鳥は目にもとまらぬ速さで飛び回り始めた。あたりに温かい風が吹きつけ、雲が晴れ日が差し込む。「どうだい嬢ちゃん、この世の春を一番に感じる気分は」その日鳥は、春一番となって世界を駆け巡った。足元に、太陽のようなオレンジ色の小さな羽がふわりと落ちた。

入選

京都府城陽市 いつき

フランスのおみやげ

フランス帰りの男の子が、かさをくれた。赤と青のかさで、開くととってもきれい。お礼を言うと、「フランスでは、赤は『博愛』って意味があるんだ。おみやげは特別なことじゃないんだ」彼はまるで、言い訳のように説明した。その日から、彼は私を色々な所へ連れて行ってくれた。自由な彼は暗闇に迷い込みそうになることもあったけれども、その度に二人で正しい道を見つけて歩んできた。

ある夏の日。私たちの息子が、フランスのかばんとかさを持って出た。家の窓からこっそり様子をうかがうと、女の子にかさをプレゼントしているようだ。海外に行っていないのに見栄をはるあたり、お父さんにそっくり。私は思わず吹き出した。



入選

千葉県千葉市 匿名(高3)

丸くなれない世界で

君に言いたいことがある。またいつか、いつの日か。祖国で待つ君に会いに行きたいんだ。あの頃よりももっと大きなトランクの中に、丸くて大きな、世界中の思い出を詰めたお土産と一緒に。二人で旅をするんだ。日焼けが嫌な君に、カラフルな傘をあげるよ。その代わり、君にパイを作ってほしい。君のパイの味は、変わっていないだろうか。

僕の手は、人を殺すためじゃなく、君の手を引くためにある。僕の足は、土地を奪うためじゃなく、君と旅するためにある。あの頃みたいに、二人で世界を、この目で見る事ができたら。そんな世界なら。それができない世界だから。僕はただ、祖国で待つ君の幸せを、願うことしかできないんだ。



入選

大分県佐伯市 木許 梗^{きもと きょう}（高3）

友達



「また引越かあ。」汽車の待ち時間に妹がため息をつく。父の都合により引越しの多い私たちは家が変わることに慣れはしたけれども、友達と離れ離れになるのはとても寂しい。せつかくできた友達も別れてしまうんじゃないかな、味がないと引越しをするたびに思う。それに、今回はとても仲良くなれた友達がいたのに。数分もすれば汽車は走り出す。待っている間妹はずっと外を見ていた。そして妹が私の肩を叩き窓の外を指さす。窓の外には友達が1人いた。さよならと言ってくれたのがわかり、今まではこんなことなかったからとても嬉しくなった。別れてしまうのなら意味がないなんて思った自分を反省し、次の引越し先でも頑張ろうと思った。